

子供たちにとって掛け替えのない「今」を大切に！ ～with コロナにおける学校生活の充実～



最近、「3年振りに〇〇を開催」というフレーズをよく耳にします。コロナの収束には未だ至っていませんが、社会生活において、様々なイベントや行事等が感染対策を徹底した上で開催されることが増えてきました。

各学校においても、修学旅行や宿泊体験活動、運動会等、子供たちが楽しみにしている活動について、市町（学校組合）教育委員会、地域、保護者等との連携・協力の下、実施方法を工夫しながら行うなど、学校教育の充実に力を尽くしていただいています。この2年間のコロナに係る知見と経験の蓄積により、どの学校でも、with コロナにおける新たな学校教育のスタンダードが確立しつつあるのではないのでしょうか。

コロナ禍は大きな「ピンチ」ですが、視点を変えると学校の教育活動の在り方を見直す絶好の「チャンス」でもあります。コロナ禍において様々な教育活動が中止や縮小を余儀なくされましたが、with コロナの学校教育に求められるのは、安易にそれら全てを「これまでどおり」に戻すことではなく、子供たちの実態に基づき、各学校で真に必要な教育活動とは何かを吟味した上で、その質の向上を図り、教育課程の工夫・改善を常に図っていく姿勢です。

「コロナ禍だからできない」ということを減らし、「コロナ禍だからこそできた」ということを増やししながら、子供たちにとって、掛け替えのない「今」がより充実するよう、引き続き、各学校の実態に応じた教育活動の推進をよろしく願います。

子供たち一人一人に丁寧に寄り添った指導、支援を！

- 「小学校高学年から中学生の子供の1～2割にうつ症状」
- 「小学5～6年生で25%、中学生で35%が自分にうつ症状が出ても『誰にも相談せず自分で様子を見る』と回答」

これは、国立成育医療研究センターの調査（2021.12）で明らかになった子供たちの実態の一部です。長引くコロナ禍は、子供の心の健康にも大きな影響を及ぼしているようです。心の不調は、眠れない、朝起きられない、集中できない、学校に行きたくないなど、様々な形で表れます。知らず知らずのうちにストレスを溜め込み、悩みや困難を抱えている子供たちのため、各学校においては、日々の観察や会話、アンケート調査、教育相談等により、問題の早期発見、解決に向けて努めていただいていることと思います。

引き続き、子供たち一人一人に丁寧に寄り添い、心身のケアに努めていただくとともに、必要に応じて、次のような県の相談事業等も活用していただきたいと思います。

【スクールカウンセラー活用事業】

子供の内面にあるストレスや不安を解消し、問題行動等の未然防止や早期発見のため、「心の専門家」である臨床心理士・公認心理師等の資格を有するスクールカウンセラーを、拠点校である中学校に配置し、近隣の小中学校を含め、カウンセリングを行っています。また、普段はスクールカウンセラーを配置していない学校でカウンセリングを行う要請訪問や、必要に応じて活用できる追加派遣を実施しています。

【ハートなんでも相談員設置事業】

学校での相談活動の充実のため、退職教員や民生児童委員などの子供にとって相談しやすい存在である相談員が、設置を希望する小中学校において相談活動を行っています。子供からの相談だけでなく、保護者や先生方からの相談にも対応しています。

【スクールソーシャルワーカー活用事業】

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などの問題に対応するため、社会福祉士・精神保健福祉士等の専門的な知識・技術をもつスクールソーシャルワーカーを市町に配置しています。問題を抱える子供や家庭などに働き掛けを行ったり、スクールソーシャルワーカーがもつネットワークを活用して、学校と福祉関係機関をつないだりしています。

